４　　忠平と鬼 　　　　　　　　　　　　　　　　　　未然形接続の助動詞①

この殿、宣旨うけたまはらせたまひて、おこなひに陣座ざまにおはします道に、南殿の御帳のうしろのほど通らせたまふに、もののけはひして、御太刀のいしづきをとらへたりければ、いとあやしくてさぐらせたまふに、毛はむくむくとおひたる手の、爪ながくて刀の刃のやうなるに、鬼なりけりと、いとおそろしくおぼえけれど、臆したるさまア（見ゆ）じ、とイ（念ず）させたまひて、「おほやけの勅宣うけたまはりて、定にまゐる人ウ（とらふ）は何者ぞ。ゆるさずは、エ（あし）なむ」とて、御太刀をひき抜きて、かれが手をとらへさせオ（たまふ）りければ、まどひてうち放ちてこそ、丑寅の隅ざまにまかりにけれ。

【本文チェック】

①（　）ア～オの中の用言を、正しく活用させて（　）に書きなさい。

　ア（　　　　　　　）　イ（　　　　　　　）　ウ（　　　　　　　）

　エ（　　　　　　　）　オ（　　　　　　　）

②ふきだしに入る適当な体言を、本文中から抜き出して書きなさい。

③本文中には「この殿」の心中を表す部分が二か所ある。それぞれ、初めと終わりに「　」をつけなさい。

【語彙力 ✚】

問１　次の語句の意味について、空欄を埋めよ。＊〔数字〕はノート本冊での本文の行数を表す。

１　おこなひ〔１〕　 ①行為

　　　　　　　　　 　②（　　　　　　　）

２　念ず〔４〕 　　　①祈る

　 　　　　　　　　　②（　　　　　　　）

問２　次の傍線部の意味として最も適当なものを選べ。

１　の葉に書きて、あやしきして、さし置かせたりけり。（十訓抄）

ア　気品のある　　　　　　イ　みすぼらしい

ウ　おかしなことを言う　　エ　派手な服装の

（　　　）

２　、せうけたまはりてまかりぬ。（竹取物語）

ア　聞い　　　イ　受けなさっ

ウ　授かっ　　エ　お受けし

（　　　）

【文法力 ✚】

問３　次の傍線部の助動詞の、文法的意味と文中での活用形を答えよ。

１　折にふれば、何かはあはれならざらん。（徒然草）

文法的意味（　　　　　　　　）　活用形（　　　　　　　　）

２　月ばかりおもしろきものはあらじ。（徒然草）

文法的意味（　　　　　　　　）　活用形（　　　　　　　　）

３　といふ題をみな人々にませ給ひけり。（大和物語）

文法的意味（　　　　　　　　）　活用形（　　　　　　　　）

問４　次の傍線部の助動詞の文法的意味を、後から選べ。

１　心憂きものは世なりけり。いかにせまし。（堤中納言物語）

２　鏡に色・形あらましかば、映らざらまし。（徒然草）

３　見る人もなき山里の桜花ほかの散りなむぞ咲かまし（古今集）

ア　反実仮想　　イ　ためらいの意志　　ウ　実現不可能な願望

１　（　　　）　　２　（　　　）　　３　（　　　）

問５　次の傍線部を現代語訳せよ。

１　われもわれもと騒がせたまふ。（栄花物語）

（　　　　　　　　　）

２　法師ばかりうらやましからぬものはあらじ。（徒然草）

（　　　　　　　　　）

３　我負けて人を喜ばしめむと思はば、さらに遊びの興なかるべし。

（徒然草）

（　　　　　　　　　）

【探究】調べてみよう

問６　他の古典作品に鬼が登場する話がないか調べて、出典を挙げ、どんな話か、内容を簡潔に紹介しよう。

出典（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

〔

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

【解答】＊〔数字〕はノート本冊での本文の行数を表す。

【本文チェック】

①　ア＝見え　イ＝念ぜ　ウ＝とらふる　エ＝あしかり　オ＝たまへ

②　手

③　「鬼なりけり」〔４〕・「臆したるさま見えじ」〔４〕

問１　１＝仏道修行　２＝我慢する

問２　１＝イ　２＝エ

問３　１＝打消・未然形　２＝打消推量・終止形　３＝使役・連用形

問４　１＝イ　２＝ア　３＝ウ

問５　１＝騒ぎなさる　２＝ないだろう　３＝喜ばせよう

問６　観点　『日本書紀』をはじめとして、『伊勢物語』『今昔物語集』『日本霊異記』『宇治拾遺物語』など、鬼が登場する話は多くの古典作品に見られる。どんな話か読んで、話の内容を簡潔にまとめて紹介できていること。

【現代語訳】

問２　１　（歌を）柏の葉に書いて、みすぼらしい子どもの召し使いを使って、置かせたのだった。

２　各自、ご命令をお受けして出発した。

問３　１　その時機にあたれば、何だって興趣のないものがあろうか。

２　月ほど趣深いものはないだろう。

３　鳥飼という題（の歌）を（そこにいる）人々みなに詠ませなさった。

問４　１　つらいものは男女の仲であったよ。どうしたものだろうか。

２　もし鏡に色や形があったなら、（物は）映らないだろう。

３　見る人もいない、山里の桜花よ。（見る人の多い）ほかの桜が散ってしまった

後に咲いたらよいのに。

問５　１　私も（連れていけ）、私も（連れていけ）と騒ぎなさる。

２　法師ほどうらやましくないものはないだろう。

３　自分が負けて人を喜ばせようと思うなら、全く遊びのおもしろみはないだろう。